

ベビーゲート等の使用に関する安全確保への取組状況について

1 提言後のこれまでの報告

本テーマの取組状況について、東京都（以下「都」とする。）から東京都商品等安全対策協議会（以下「協議会」とする。）の報告は今回が初めてとなる。

2 事故状況

都は事故状況把握のため、東京消防庁救急搬送事例、医療機関ネットワーク¹受診事例を収集した。その結果、2019 年から 2021 年まで²に、ベビーゲート等³が関連する 5 歳以下の事故で救急搬送や受診に至った事例は 86 件⁴であった。うち中等症⁵の事例は 4 件であった。

本資料の事故事例において、「ベビーゲート等に関連」するものとして把握した事故事例は以下のとおりである。

- ・ 事故事例の中に「ベビーゲート」等の記載がある。
- ・ 以下の例のようなベビーゲート等の設置が推測される記述がある。

（例）「階段に取り付けた柵が閉まっておらず」

- ・ 以下のような屋外で発生したものは除く。

（例）「アパートの階段の柵に頭をぶつけた」

なお、ベビーゲート等の記載がなく、ベビーゲートの扉を閉め忘れたなどの理由で乳幼児が通過した後に転落等により危害が生じた場合は、事故事例として抽出できていない可能性がある（表 1-1）。

表 1-1 2019 年から 2021 年までの事故件数

	救急搬送・受診件数
東京消防庁救急搬送事例	30 (2)
医療機関ネットワーク受診事例	56 (2)
合計	86 (4)

（注）カッコ内は中等症の件数

¹ 消費者庁と独立行政法人国民生活センターは、2010 年から共同事業として、同種・類似の事故の再発を防止するため、全国 30 病院（2021 年 10 月時点）が参画し、消費生活において生命・身体に被害を生ずる事故に遭い医療機関を受診した患者から、消費者からの相談になりにくい不注意や誤った使い方も含めて事故の詳細情報等を収集する医療機関ネットワーク事業を実施している。

² 東京消防庁救急搬送事例は 2019 年 1 月～2020 年 12 月の事例である。医療機関ネットワーク受診事例については 2019 年 4 月～2021 年 8 月に通知された事例である。

³ 「ベビーゲート等」とは、生後 24 か月以内の乳幼児が室内、廊下、階段等へ移動することを防止するため、一般家庭の家屋に取り付けて使用するベビーゲート、ベビーフェンスといった商品（据え置き式の商品は協議会の対象外）

⁴ 搬送事例と受診事例は、一部重複する可能性がある（以下同じ）。

⁵ 中等症とは、生命の危険はないが、入院を要するものである（傷病者重症度分類表による）。

東京消防庁救急搬送事例の件数の推移は以下のとおりである（表 1-2）。

表 1-2 事故件数の推移（東京消防庁救急搬送事例）

発生年	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
合計	5 (0)	8 (0)	10 (0)	14 (2)	7 (0)	12 (0)	18 (2)

（注）カッコ内は中等症の件数

年齢別の発生状況を表 1-3 に示す。1 歳が最も多く、0 歳 6 か月から 2 歳までを中心に起きているが、3 歳以上の事故も生じている。

表 1-3 年齢別の発生状況

年齢	～5 か月	6 か月～	1 歳	2 歳	3 歳	4 歳	5 歳	合計
東京消防庁	0(0)	2(0)	14(1)	6(1)	5(0)	2(0)	1(0)	30(2)
医療機関ネットワーク	0(0)	19(0)	23(2)	9(0)	4(0)	1(0)	0(0)	56(0)
合計	0(0)	21(0)	37(3)	15(0)	9(0)	3(0)	1(0)	86(0)

（注）カッコ内は中等症の件数

事故発生要因別の発生状況を表 1-4 に示す。ベビーゲート等が直接関連した事故は 26 件あり、ベビーゲート等を通過した先で発生した事故は 57 件、状況が不明な事故は 3 件であった。

表 1-4 事故発生原因

事故の形態	ベビーゲート等に関連する原因	東京消防庁	医療機関ネットワーク	合計
ベビーゲート等が直接関連した事故（26 件）	ベビーゲート等が外れた※	5 (0)	6 (0)	11 (0)
	ベビーゲート等にぶつけた	7 (0)	3 (0)	10 (0)
	ベビーゲート等に挟んだ	4 (2)	0 (2)	4 (2)
	ベビーゲート等につまづいた	1 (0)	0 (0)	1 (0)
ベビーゲート等を通過した先で発生した事故（57 件）	閉め忘れ	6 (0)	37 (2)	43 (2)
	ロック解除	1 (0)	5 (0)	6 (0)
	ベビーゲート等を乗り越えた※	3 (0)	5 (0)	8 (0)
不明（3 件）		3 (0)	0 (0)	3 (0)
合計		30 (2)	56 (2)	86 (4)

（注）カッコ内は中等症の件数

※「ベビーゲート等を乗り越えた」と「ベビーゲート等が外れた」は、通過した先での事故か、直接関連した事故かの分類が難しいため、ここでは、本表のように分類している。

事故に関連するベビーゲート等の設置場所を事故原因別に示す。設置場所別では階段上に設置した場合の事故が他と比較して多く、全体の 67%を占めている。また、事故原因別に分けると、閉め忘れが全体の 50%を占めている（図 1-5）。

表 1-5 ベビーゲート等の設置場所と事故原因

		階段			台 所	居 間	居 室	ベラ ンダ	玄関 前	不 明	合計	
		上	下	不明								
ベビーゲート等 が直接関連した 事故	外れた	8	0	1	1	0	0	0	0	1	11	13%
	ぶつけた	0	1	0	1	1	3	0	0	4	10	12%
	挟んだ	0	0	0	0	3	0	0	0	1	4	5%
	つまづいた	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1%
	不明・その他	0	1	0	0	0	1	0	0	1	3	3%
ベビーゲート等 を通過した先で 発生した事故	閉め忘れ	41	1	1	0	0	0	0	0	0	43	50%
	ロック解除	6	0	0	0	0	0	0	0	0	6	7%
	乗り越えた	3	0	0	0	1	0	0	0	4	8	9%
合計		58	3	2	2	5	4	0	1	11	86	
		67%	3%	2%	2%	6%	5%	0%	1%	13%		

都が把握した事故事例のうち、その一部を、表 1-6、表 1-7 に示す。

表 1-6 東京消防庁救急搬送事例

No.	事故（危害）の内容
1	自宅の屋内階段から、柵とともに転落。柵に乗り上げたまま滑り落ち、左のこめかみ付近を受傷。
2	自宅内で 80cm 程度の柵を乗り越えようとした際に転倒し、顔面を受傷。
3	自宅で子供用の車に乗って遊んでいたところ、屋内階段設置の転落防止柵が開放されていたため、誤って階段から転落し前額部を受傷。
4	自宅の階段口に設置してあった転落防止柵に寄り掛かっていたところ、柵が開き後ろ向きに階段約 8 段を滑り落ち、右鼻から出血。
5	自宅内で進入防止の柵に右大腿部が挟まり取れなくなった。

表 1-7 医療機関ネットワーク受診事例

No.	発生年	年齢性別	事故（危害）の内容	
1	2019年	8か月 女児	軽症	2階のリビングで児は歩行器に乗って、兄弟といっしょにいた。保護者は3階の部屋で片付け中だった。突然ガタガタという音が聞こえてきて、保護者が見に行くと児が乗っていた歩行器ごと1階に転落していた。1階の床で歩行器から放出された状態で泣いていた。2階のリビングから、ドアや廊下は無くすぐに階段下り口がある。ゲート（スクリーンタイプ）を設置していて、子どもたちは開けられないが、別の兄弟が出掛けるため、保護者がゲートを開けて3階に行っていたとのこと。
2	2019年	2歳3か月 女児	軽症	自宅内3階の階段に設置されていた柵を押し倒して6・7段転落した。頭部挫創、縫合処置を要した。
3	2020年	3歳5か月 女児	軽傷	キッチンゲートを揺らして遊んでいたら外れて反動で壁柱（木製）に後頭部打撲し出血。後頭部挫創、1針縫合。
4	2020年	1歳9か月 男児	中等症	2階リビングに児がいた。普段は階段はゲートを閉めていたが、急いで出掛ける準備をしていたため閉まっていなかった。突然どかんと音がして、保護者が見に行くと、最後数段を落ちてくるところを目撃。ほぼ最下部まで落ちたところで、保護者が拾い上げた。全身打撲、頭部挫創。縫合処置を要した。経過観察のため2日間入院。
5	2020年	2歳6か月 男児	軽傷	階段5段より約1m、保護者が目を離したすきに転落。ゲートあったが自分であける。頭部腫脹、出血なし。
6	2021年	1歳9か月 男児	軽傷	リビングのゲート（高さ80cm）を乗り越えようとして転落。保護者がみた時にはうつぶせで泣いていた。前額部挫創あり。縫合処置を要した。

3 業界団体の取組状況

一般財団法人製品安全協会からは、以下の回答があった。

(1) 商品の安全対策の強化

ベビーゲートに限らず乳幼児用品のSG基準の整合をはかっていきたいと考えている。

(2) 消費者の行動に結びつく注意喚起

協会のPR手段として、今までのWEBとメールマガジンに加え、来年度はSNSを活用することを検討している。

4 都の取組

事故状況を注視しつつ、ウェブサイトやSNSで消費者へ注意喚起を継続している。また、事故防止啓発リーフレット「ベビーゲートを安全に使いましょう！」を子育て世代向けのイベントにおいて配布を行っている。